

応用老年学会2018年大会でリタイア後の準備等 意識調査結果を発表

働く60代前半者を実施したセカンドライフに関するWEBアンケート調査結果

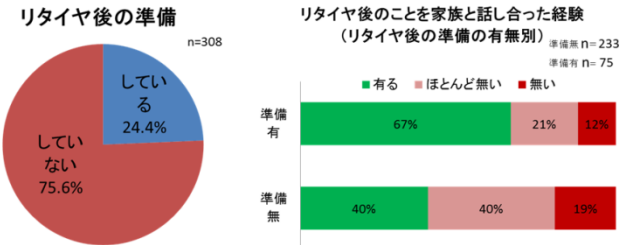
【日時】 2018年10月21日(日) 9:00-10:30 第4セッション
 【場所】 東京都健康長寿医療センター研究所(板橋区)
 【主催】 日本応用老年学会
 【演題】 セカンドライフに関する意識調査-その1(60代前半者)
 【内容】

- 65歳以降の準備をしている人は24%と少ない。働く60代前半者の過半がリタイア後の準備について考えることを先延しにしており、再雇用期間が次ステージへの準備ステップになっていない。
- 人生80年と考えている人が多く(自分の寿命=平均80.1歳の回答)65歳以降10年余しか生きないとの認識から準備をしていないと推察。cf.現在の日本人60歳者の平均余命(寿命):男性86歳、女性91歳
- リタイア後の生活不活発を予防し健康寿命を延ばすには次ステージで役割を担い、生活を充実させることが重要だが、そのためには、まず現在起こっている寿命革命をしっかり認識する必要がある。

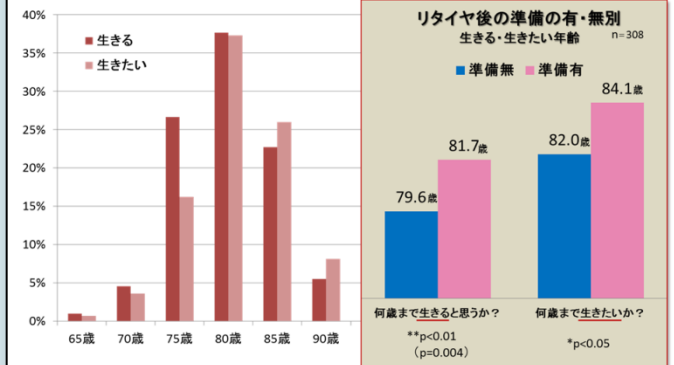
【学会理事長から発表についてのコメント】

「マスコミなどが平均寿命(男性:80歳)ばかり言うので皆自分の寿命をそう考えてしまう。平均余命はもっと長く、人々がきちんと人生設計していくためには自分の余命を正しく認識する必要がある。」

リタイア(現在の雇用契約終了)後の準備について



何歳まで 生きると思うか? 平均 80.1歳 生きたいか? 平均 82.5歳



※60歳者の平均余命=男性26年(86歳)、女性31年(91歳)

【標準生命表2018年より】